



analytica2010



Messe München
International

ファイナルレポート

第 22 回 国際ラボテクノロジー・分析技術・バイオテクノロジー

専門見本市・会議

2010 年 3 月 23 日～3 月 26 日

ドイツ・新ミュンヘン国際見本市会場

2010 年 3 月 26 日

Summary

- 出展社数・来場者数ともに、前回に比べ増加
- 初めて設けられたバイオテクノロジー特別エリアとバイオテックフォーラムも盛況に
⇒ライフサイエンス業界が好調であることを示す兆候
- analytica Conference 参加者は、前回と比べて 5% 増の 1,197 人
⇒バイオロジー、医療技術、薬学研究、環境・食品分析など注目の話題にフォーカス



Facts & Data

会 期	2010 年 3 月 23 日(火)～26 日(金) 午前 9 時～午後 6 時
会 場	ドイツ・新ミュンヘン国際見本市会場
主 催	ミュンヘン見本市会社 (Messe München GmbH)
規 模	全 5 ホール 約 55,000 m ²
出 展 企 業	37ヶ国から 1,038 社 (2008 年:34ヶ国から 1,032 社)
来 場 者 総 数	120ヶ国から 33,000 人 (2008 年:111ヶ国から 32,500 人)
専 門 分 野	光学、ラボ技術、バイオテクノロジー、研究 & リサーチ
主 な 出 展 品	アプリケーション、分析・診断機器・処理・技術、検査・測定・品質管理、情報・サービス、ラボ装置・機器、試薬・化学製品、バイオテクノロジー、スタートアップフォーラム(技術交流、各コンサルティングほか)
出展日本企業 (現地法人・代理店出展含む)	旭テクネイオン(株)、(株)アタゴ、(株)アルバック、アルファーマイラージュ(株)、(株)エス・テイ・ジャパン、オリンパス(株)、(株)キーエンス、コニカミノルタセンシング(株)、三洋電機(株)、ジエールサイエンス(株)、シスメックス(株)、(株)島津製作所、ジャスコインタナショナル(株)、昭和電工(株)、セイコーインスツル(株)、高砂電気工業(株)、東ソー(株)、(株)ニコン、日東工器(株)、日本電子(株)、社団法人日本分析機器工業会、浜松ホトニクス(株)、(株)日立ハイテクノロジーズ、(株)平山製作所、藤森工業(株)、(株)堀場製作所、(株)リガク、(株)ワイエムシィ (50 音順)
専 用 U R L	www.analytica.de (英語 / ドイツ語)

2010年3月23日から26日までドイツ・新ミュンヘン国際見本市会場で「analytica 2010」が開催された。来場者数は120ヶ国から33,000人、出展社数は37ヶ国から1,038社と前回より多く、業界全体の上向きな雰囲気を表していた。このような傾向から、analytica が分析技術、ラボ・バイオテクノロジー分野における国際的なリーディング見本市として業界が認めていると言える。また見本市と併催されている専門会議「analytica Conference」への参加者も前回より増加し、プログラムの内容とその質の高さを認めている。



「今年の analytica は予想を上回る結果となり、業界をリードする国際見本市としての役割を果たしたと思う。企業も協会団体も、業界の上昇傾向をすでに実感できたようで、大変満足している」とミュンヘン見本市会社 Deputy CEO の Norbert Bargmann は話している。出展社数は前回 2008 年より多く、来場者アンケートによると業界を代表する企業が一堂に会していること、出展社の国際色が非常に豊かなこと (37.5%がドイツ国外から登録) が、非常に高く評価されている。

来場者からの高い評価

ここ最近の経済危機にも関わらず、来場者数は前回は上回り、120ヶ国以上から33,000人が来場した。ドイツ国外からの来場者の割合は前回に続き著しく増加し、毎回来場の多いオーストリア、UK、USAからの来場者に加え、イタリア、フランス、スロベニア、トルコそしてマレーシアからの来場者が大幅に増加した。このような要因も影響し、独立系調査会社 tns infratest 社によると、来場者の97%が analytica 2010を良い/非常に良いと評価している。また81%が2012年も来場すると答えており、94%が analytica をリーディング見本市として、91%が国際色の豊かな見本市として高く評価している。

Innovative Solutions 分野出展社の高い満足度

出展社からも非常に高い評価を得られた。Deutsche METROHM GmbH & Co. KG 社の常務取締役 Dr. Hans-Jürgen Knabe 氏は、「弊社が1968年の analytica 初回開催以来ずっと出展していることが、いかに analytica が我々企業や業界にとって重要な見本市であることを証明している。analytica は分析技術分野のリーディング見本市だ。(中略)今回顕著だったことは、前回に比べて海外からの来場者数が非常に増えたことだ」と話している。joint analytical SYSTEMS 社の代表取締役兼 CEO Joachim Gerstel 氏も同じような感想を持っており、「革新的企業として、また今まで長期間継続出展している出展社として、analytica は特に新製品を紹介するプラットフォームとして非常に効果が高いと確信している。この数日で、弊社ブースに前回と比べて2倍の来場があった。来場者の数、質ともに非常に満足しているので、2012年も必ず出展する」と話している。

今回初めて analytica に出展した企業からの評価も非常に好意的だ。HA Hessen Agentur GmbH 社のヘッセン州バイオテック・プロジェクトダイレクター Dr. Detlef Terzenbach は、「弊社は今回 analytica に初出展し、ヘッセン州の企業を集めて共同出展した。(中略)我々は皆、小間位置がよかったことと、出展効果が高かったことに大変満足している。2012年も必ず出展する」と話している。

今回初めて会場内に設けられた、バイオテクノロジー特別エリアとバイオテックフォーラムの評判もよかった。バイエルン州バイオテクノロジークラスターの広報担当、兼 BioM 社の常務取締役 Prof. Dr. Horst Domdey 氏は、「全ホールが盛況で、今回はバイオテクノロジー分野が見所だった。また、当然そうあるべきであった。もしかしたら今まで間違った印象を持っていたのかもしれないが、こんなに活気があって盛況な analytica は、今まで見たことがない。この状況は、私にとって、ライフサイエンス業界が好調であることを示す素晴らしい兆候だ」と話している。

analytica Conference: 国際色豊かな最も重要な分析技術のプラットフォーム



“Forum Analytik”など analytica Conference 主催者は、会議の結果について非常に満足している。ドイツ化学会(GDCh)の analytica Conference 担当マネージャー Renate Kiessling 氏は、「今回の analytica Conference 参加者は、前回と比べて 5%増の 1,197 人だった。ドイツ国内外からの参加者及び講演者は、科学的な専門会議を見本市と同時開催したことによって得られたシナジー効果の高さを実感した。このプログラムは、ヨーロッパにおいて最も重要な分析技術のプラットフォームであり、また関係者と直接対話できる貴重な機会である」と話している。140 人の著名な講演者が、4 つの講義と 23 の個別シンポジウムで、バイオロジ、医療技術、薬学研究といった最新の分析技術のトレンドについて、また話題の環境・食品分析について焦点を当て、問題点を明らかにした。GDCh 授賞式、特許出願中のラボ診断、ライフサイエンス分離技術、ドーピング分析、プロテオーム研究、微粒子検査、微粒子毒物学についてのプレゼンテーション、また、現代化学分析技術の美術品への利用法、糖尿病の扱いに役立つ分析技術についての講演に、特に焦点が当てられた。

次回 analytica 2012 は、2012 年 4 月 17 日～20 日にドイツ・新ミュンヘン国際見本市会場で開催される。

詳細情報ならびに写真は、専用ホームページ www.analytica.de まで。

次回予告

「analytica China 2010」 2010 年 9 月 15 日～17 日 於:上海新国際見本市会場
www.analyticachina.com (英語 / 中国語)

「analytica Vietnam 2011」 2011 年 4 月 7 日～9 日 於:ホーチミンシティ、ベトナム
www.analyticavietnam.com (英語)

「analytica Anacon India 2011」 2011 年 10 月 12 日～14 日 於:ムンバイ、インド
www.analyticaindia.com (英語)

「analytica 2012」 2012 年 4 月 17 日～20 日 於:新ミュンヘン国際見本市会場
www.analytica.de (英語 / ドイツ語)

資料請求、出展申込み、入場券購入、各種お問い合わせ先:

メッセ・ミュンヘン・インターナショナル 日本代表部

〒102-0075 東京都千代田区三番町 2-4 三番町 KSビル 5F 在日ドイツ商工会議所内

Tel.: 03-5276-3508 Fax: 03-5276-3509 E-mail: info@messe-muenchen.jp

URL: www.messe-muenchen.jp (日本語) www.messe-muenchen.com (英語 / ドイツ語)